

感染症情報 4月4日～10日

府下小児科200医療機関（堺市19）から

①感染性胃腸炎	1427例	（堺市 50例）
②溶連菌感染症	313例	（堺市 14例）
③おたふくかぜ	160例	（堺市 3例）
④突発性発疹	82例	（堺市 2例）
⑤みずぼうそう	54例	（堺市 4例）

府下小児科・内科307医療機関（堺市28）から

インフルエンザ 1333例（堺市 128例）

が報告された。

インフルエンザを除く感染症は前週から8%減少し、順位は変わらず第1位が感染性胃腸炎、第2位が溶連菌感染症、第3位がおたふくかぜとなっている。インフルエンザは定点当たり4.3（堺市4.6）と8週連続して減少して注意報レベルの10を下回わり、ピークの10分の1となった。新学期が始まったが、堺市の小中学校のインフルエンザによる欠席児童は20数名に過ぎず、集団発生もない。しかし、再燃する可能性は否定できない。

はしか、風疹の報告はなかった。